



核も基地もない沖縄を!



核兵器禁止条約に参加する日本の実現を!

8月8日、翁長雄志沖縄県知事が急逝しました。7月27日、辺野古新基地建設のための埋立承認撤回を表明したばかりでした。

戦後、沖縄には、1300発を超える米軍の核兵器が配備され、核ミサイルが誤射寸前になったこともあります。復帰後も、有事の際には密約が結ばれ、米軍基地の過重な負担とともに、核の危険にさらされたままです。

新基地建設がすすむ辺野古は、核弾頭が持ち込める弾薬庫があります。被爆国に核攻撃の拠点はいりません。翁長知事の遺志を継ぎ、核も基地もない沖縄の実現のため、一緒に声をあげましょう。

9月は核兵器廃絶へ声をあげる月です

9月20日は核兵器禁止条約の調印が始まってから1年、26日は国連が定めた「核兵器廃絶国際デー」です。8月28日現在、禁止条約に60カ国が調印、14カ国が批准しています。

非核化と平和への流れがすすむ朝鮮半島をみても、核兵器ではなく、外交や対話でこそ国どうしのめごとが解決できることが明らかです。

それでもなお、安倍政権は、「北朝鮮脅威論」を口実に、禁止条約に不参加を明言しています。被爆国の市民一人ひとりが声をあげて、核兵器禁止・廃絶へイニシアチブをとる日本を実現しましょう。

「(核兵器禁止)条約とは考え方、アプローチを異にしている。参加しない考えに変わらない」

(安倍首相、8月6日、広島被爆者団体との懇談にて)



これが被爆国の首相?

国連認証 NGO・原水爆禁止日本協議会(日本原水協)

TEL03-5842-6031 HP:<http://www.antiatom.org/>